

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和六年八月句会（第一四七回）

兼題 「日焼け」

開催日 令和六年八月二十四日

開催場所 生涯学習センター

出席者 六名

投句者・選句者 七名

（六 点 句）

●日の強き庭に白百合凜と立つ

寿歩

選評：この句は作者の日々培ってきた文学的センスと教養が瞬間的に口を突いて出来た句と拝察します。五七五の韻がスムーズに流れ、軽やかな響きを感じます。

又、この句は人は「生きる」ことの厳しさを誰もが経験するものであるが、「酷暑の中でも凜と立つ」こんな気持ちで頑張りたいと言っているようである。秀句ですね。

（互 酬 記）

（四 点 句）

●へちや鼻と言へども高し日焼けかな

寿歩

選評：自分の鼻は低いけれども、顔の他の部分よりは高いと感ずる日焼けであるなあ、という句意。“へちや鼻”という言葉に久しぶりに触れた。作者は自虐的に使っているが、かつて昭和時代では他人の身体的特徴を揶揄する言葉にあふれていた。今これをやれば大炎上である。新しく生まれる言葉もあれば廃れる言葉もあると思った。

（玄鳥記）

●墓参り枯花二本ありにけり

寿歩

選評：久しぶりに墓地へお参りに行かれたのでしょうか。墓前の花立てにある二本の枯れた花は何を語ろうとしているのでしょうか。作者の気持ちが半分は推測できる、深みのある、味わいのある句です。

（艸寛記）

（三 点 句）

日焼子の瞳はつよく輝けり

玄鳥

（二 点 句）

日焼け肌妻のローションそつと塗り

徹心

「暑いね」とオーム返しに妻も言い  
長考の棋士や扇子を握り締め  
健診の結果を聞きて麦酒かな

互 酬  
玄 鳥  
玄 鳥

（一 点 句）

日焼けせし父母の写真のセピア色  
牽牛花残照見ずにしぼむ恋  
川開き屋根に座りてスターマイン  
酷暑なり可惜身命第一に  
夏山や麓の宿の握り飯  
友の家更地前にと夏夕べ  
捕虫網担ぎ過行く日焼けの子  
自分史は北京発なり終戦の日  
納涼祭ビンゴゲームで熱くなり  
踊りの輪櫓なくして広々と

夢 心  
互 酬  
夢 心  
小 牧  
夢 心  
小 牧  
玄 鳥  
徹 心  
小 牧  
夢 心  
夢 心

（投 句）

日焼け皮膚優しく剥いてくれた母  
手土産に陽焼け顔見せ戻る吾子  
みな日焼け時代移れど球児達  
日焼けなり背中仕上がる黒模様  
露天風呂貸し切りにして山桃の宿  
動もせば争い消えて露の世に  
おにやんま門前堂々構えたり  
盆踊りおけさの手つき小学生  
薄曇り油断の二時間日に焼ける  
色白が日焼けでセピア亦映（ぼ）えぬ

徹 心  
互 酬  
小 牧  
小 牧  
小 牧  
互 酬  
小 牧  
小 牧  
小 牧  
小 牧  
徹 心

『句会後記』

酷暑にも負けず、用事のための欠席一名以外六名元氣に参加でした。始めに菅原さんから句集第十二号の説明と提案がなされ、その後一句ずつの鑑賞に入りました。私は締切日を勘違いし、二日間でどうにかひねり出した句が三句も評価いただき大変驚きました。

余裕がなく見直さなかつたことで、思いの勢いがストレートに言葉に乗り、皆様の共感を得られたのでしょうか。下手の推敲休むに似たり、かしら!?

また、句をより理解しようと質問したり、より良い句にしようとアドバイスし合ったりできるこの句会を、しみじみと有難く嬉しく思いました。これからもよろしくお願いたします。

（寿歩記）